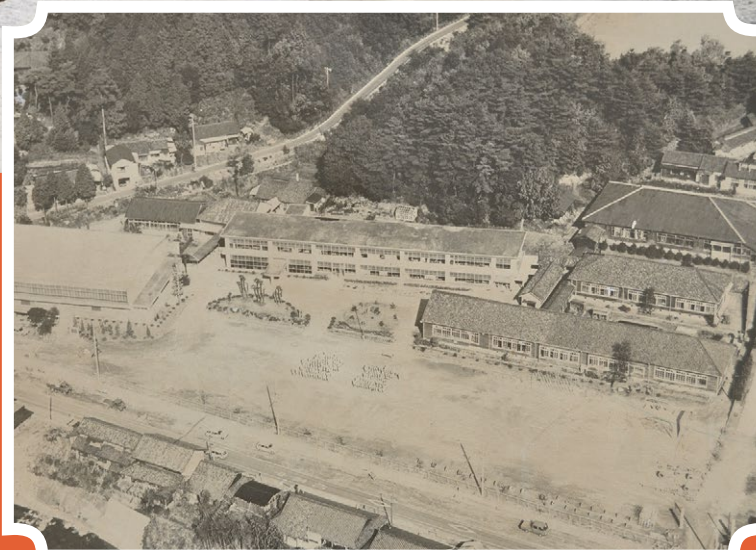


とよとみ 昔・今・未来

豊富学区

TOYOTOMI



未来の岡崎に伝えたいメッセージ



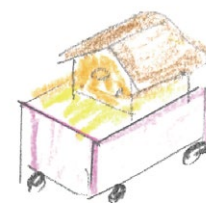
すてきな豊富学区

わたしの大好きな豊富には、大切な物や残して欲しい物がたくさんあります。特に残してほしい物が2つあります。1つ目は、ホテルが住めるキレイな川です。2つ目は、みんなが持っている優しい心です。特に残してほしいです。(小学生)



伝統を受け継ぐ

毎年4月にある須賀神社の春祭り。私は、小1から太鼓の演奏で参加しています。当日は、山車に乗って地区を練り歩きます。太鼓は、先輩の指導のおかげで成り立っています。先輩のように伝統のある祭りを支え、受け継いでいきたいです。(中学生)



これからも地域の為に

私は、消防団に所属し務めさせていただいています。これからも、地域に密着し、地域の皆様の生命と財産を守る消防団員として地域に貢献していきたいです。(30代)



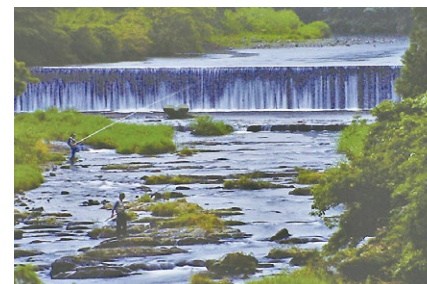
日本の良いところを！

春は桜の華やかさ、夏は青田の力強さ、秋は紅葉の鮮やかさ、冬は白一色の雪景色、日本には四季折々に自然がকাশし出す素晴らしい風景があります。また、日本人の心の美しさ、いつまでも大切に残してほしいものです。(70代)



編集後記

旧額田町が岡崎市に編入し、早11年になりました。市面積の4割が清涼な水と緑に囲まれた額田地区は、素晴らしい環境に恵まれた地域です。また、その中心地である豊富学区には新東名の岡崎東インターチェンジができ、「将来に向けて、夢のある地域づくり」に邁進せねばなりません。そして今回の岡崎まちものがたり作成に当たり、この地区の100年の歴史を知り、伝承しなければならない多くの文化と史跡があることを感じました。先人が私たちに残したように、私たちも未来の人に、残さねばなりません。それは、①豊かな自然環境、②豊かな人との絆環境(お互い相手を助ける)。この町に住んで良かったと言えるような地域づくりを目指し、豊富学区のさらなる発展を目指しましょう。



清流男川・鮎の友釣り

〔作成委員会〕 今泉 清/宇佐美正子/浦野公一/杉浦史郎/鈴木勝男/鈴木正明/山口明則

〔表紙写真〕 岡崎東IC、昭和48年の豊富小学校

〔参考資料〕 額田町史/新編 岡崎市史 額田資料編Ⅰ・Ⅲ/ふるさと読本 ぬかた



1 西牧野遺跡



2 片寄用水



3 監視哨



4 旧額田町役場



5 額田中学校



6 額田緑園工場団地



7 新学校橋

豊富学区

まちなりたち

原始古代

八一三年 ■ 弘仁 4

一三六二年 ■ 貞治 1

近世末から明治

一八八九年 ■ 明治 22

一九〇六年 ■ 明治 39

一九一二年 ■ 大正 1

一九一六年 ■ 大正 5

一九一九年 ■ 大正 8

一九二三年 ■ 大正 12

一九二四年 ■ 大正 13

一九二九年 ■ 昭和 4

一九三〇年 ■ 昭和 5

一九三五年 ■ 昭和 10

一九四二年 ■ 昭和 17

一九四三年 ■ 昭和 18

一九四五年 ■ 昭和 20

一九四七年 ■ 昭和 22

一九五六年 ■ 昭和 31

一九七二年 ■ 昭和 47

一九七四年 ■ 昭和 49

一九七五年 ■ 昭和 50

一九八二年 ■ 昭和 57

一九九三年 ■ 平成 5

一九九五年 ■ 平成 7

一九九八年 ■ 平成 10

二〇〇六年 ■ 平成 18

二〇一〇年 ■ 平成 22

二〇一二年 ■ 平成 24

二〇一五年 ■ 平成 27

二〇一六年 ■ 平成 28

学区内には旧石器・縄文・弥生各時代の遺跡が残る…1

桜井寺が創建されたと伝えられる

天恩寺が創建されたと伝えられる

淡淵はじめ各地で用水を引く…2

豊岡村・高富村となる

豊岡村・高富村・夏山地区が合併して豊富村となる

榎山に製糸工場ができる

榎山に電灯がつく。岡崎―榎山―亀穴に乗合馬車を通る

額田銀行榎山出張所が開設される

桜井寺地区にて珪石が産出される

乗合馬車がバスとなる

鳥川電気利用組合ができる

愛電バスが運行される

豊富診療所が開設される

北岡の山頂に監視哨が建つ…3



鳥川国民学校が焼失する

榎山が機銃掃射を受ける

国民学校初等科を豊富小学校・鳥川小学校、高等科を豊富中学校と改称する

豊富・宮崎・形埜・下山の4村が合併して額田町となる…4

町内4中学校が統合して額田中学校が設立される…5

牧平・榎山地区に額田緑園工場団地全ブロックが造成される…6

県道岡崎清岳線バイパスが開通する

県道阿蔵本宿線榎山バイパスが開通する

鳥川小学校が焼失する

県道阿蔵本宿線が国道473号に昇格する

全戸に防災行政無線が設置される

岡崎市東消防署額田出張所ができる

岡崎市へ編入する

鳥川小学校が閉校となる

岡崎市ホタル学校がスタートする

市道原下衣文線に新学校橋が開通する…7

国道473号榎山本宿間のバイパスが開通する

新東名が完成し、岡崎東インターチェンジの利用が始まる



額田町閉町記念
モニュメント

学区の特色

明治22年に、榎山村・桜井寺村・下衣文村・牧平村・鹿勝川村が合併して豊岡村となり、鳥川村・細光村・滝尻村・淡淵村・片寄村が合併して高富村ができました。さらに明治39年に、この二つの村に夏山地区を加えて豊富村となり、本学区が成立しました。小学校は、明治7年より主に片寄と榎山の2か所に置かれていましたが、大正6年に両校を合併して豊富尋常高等小学校ができ、これが現在の豊富小学校につながっています。昭和31年に額田町ができると、豊富学区に役場や図書館などが置かれ、商店街や工業団地もできて、町の中心として発展しました。

しかし、林業の衰退などを理由に額田町全体の過疎化が年々進み、昭和47年には町内の四つの中学校を合併して寄宿舎のある額田中学校が、学区内の原新田に作られました。

平成18年に岡崎市に編入しましたが、過疎化の流れを止めることはできず、豊富学区においても子どもの数は減少傾向にあります。平成28年の新東名のインターチェンジ開設に伴い、周辺に新しい道路等も整備されてきており、これにより過疎化の流れを止めて、新たな開発の進むことが大いに期待されています。

学区の祭りとしては、榎山の須賀神社の山車が有名です。鳥川地区の「ホタルまつり」も、市内外から多くの人々が訪れます。ホタルがこれからもさらに増え続け、ますます人々をつないでいってくれることを願います。

学校の校章紹介

学校の校章は、地域の特徴などをとらえていることも多いものです。今ある学校も廃校となった学校も、それぞれの歴史を物語っています。



豊富小学校



豊富中学校



鳥川小学校



額田中学校

DATA



□人	4,337人
□男性	2,149人
□女性	2,188人
□世帯数	1,447世帯
□面積	32.27km ²
[2016年7月1日現在]	

民話 小太郎岩 ……



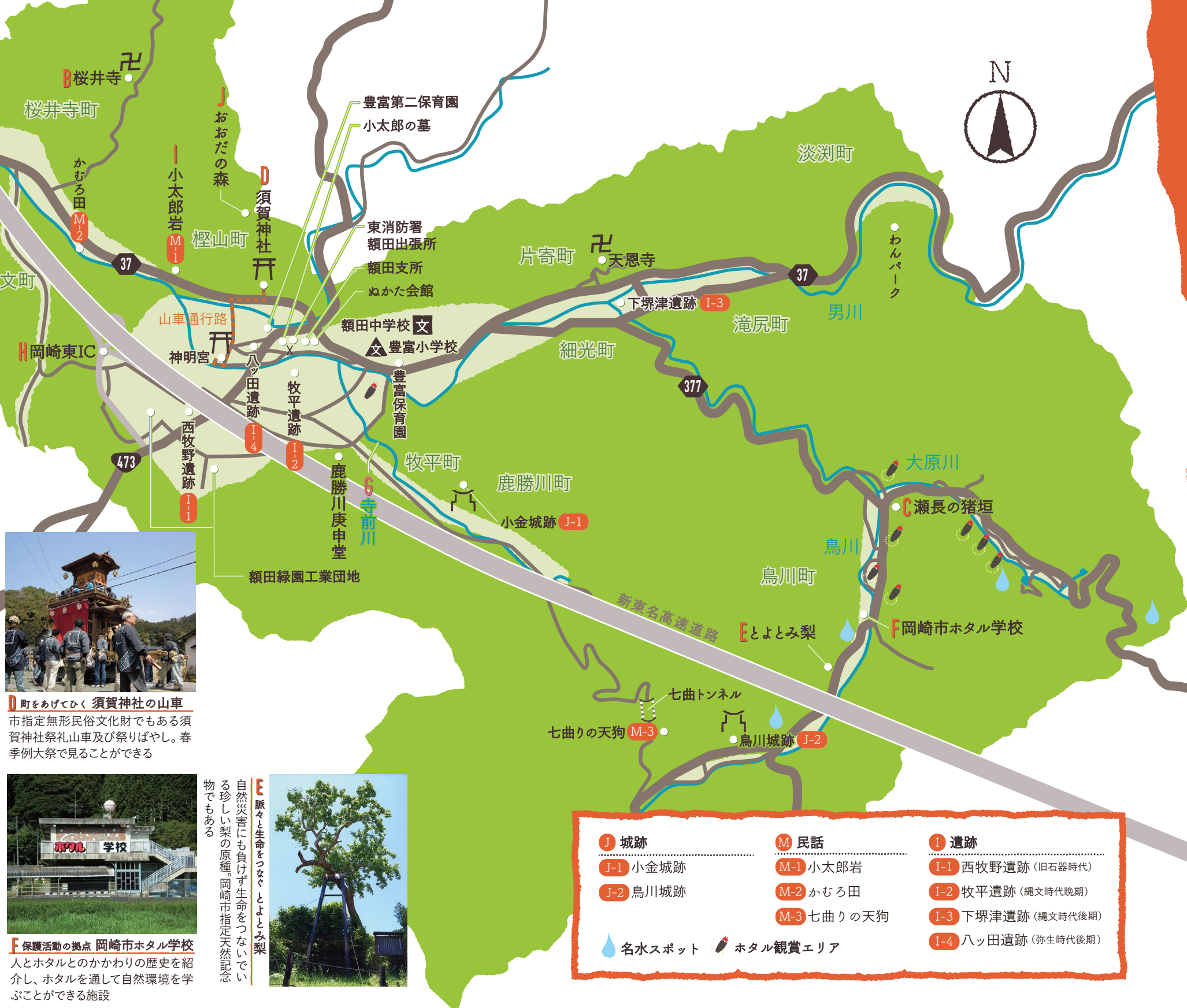
心やさしい小太郎の話
今に伝える小太郎岩

この地には、天狗が人を驚かす話である「七曲りの天狗」や、親孝行の話である「かむろ田」をはじめ、数多くの民話が伝わっています。なかでも実在する「小太郎岩」のお話は、沢にかかった橋が崩れ、村人達の困った様子を知った小太郎が、遠くから大きな岩を担いできて、橋の代わりにしたというものです。駐在所の裏の小太郎のお墓には、今でも地元の人々によって香花がたむけられています。

おおだの森を歩く ……

天気さえ良ければ、毎日、おおだの森に登っている人々がいます。なかには、自宅から徒歩で1時間以上かけて歩いて来ている人もいます。当初は、健康づくりで始めたことが、四季の移り変わりによって表情を変える山の姿に魅せられ、また出会う人々との交流も楽しみとなって、ずっと続けているとか。山道は地元の有志によって歩きやすく整備され、地域でこの森を大切にしています。

標高262.3mのシンボル、おおだの森。初日の出を見る会などのイベントも行われる



D 町をあげてひく 須賀神社の山車
市指定無形民俗文化財でもある須賀神社祭礼山車及び祭りばやし。春季例大祭で見ることができる



E 保護活動の拠点 岡崎市ホテル学校
人とホテルとのかかわりの歴史を紹介し、ホテルを通して自然環境を学ぶことができる施設

E 脈々と生命をつなぐとよみ梨
自然災害にも負けず生命をつないでいる珍しい梨の原種。岡崎市指定天然記念物でもある



H 新たな息吹を吹き込む 道路網整備
新東名岡崎東ICのオープン、国道473号線バイパスの開通で交通至便に。高架下には榎山公園も新設



G 一足早くホテルが舞う 寺前川
豊富小で学校川と呼ばれ親しまれている川。周辺地域よりも約1週間早くホテルが乱舞する



C 獣害から作物を守った 瀬長の猪垣
かつては各地にあり、今は貴重な猪垣。上部に向かって反る「猪返し」という造りが特徴



B 厄除けで有名な真言宗の寺 桜井寺
県指定文化財の打楽器「磬(けい)」を保存。大治2年と書かれた在銘金石文は県下最古



A ガラ紡を支えた水車
ガラ紡の動力源だった水車。その遺構は数が少なく大変貴重なもの

長い歴史に培われた文化や産業、豊かな自然など、見どころいっぱい豊富学区のお宝を紹介します。

豊富学区のお宝紹介マップ

先祖から受け継いできた文化遺産
みんなで守り、
未来へ引き継ごう

豊富の重要文化財



ホタルの里 とつかわ

暮れなずむ
火垂る火の里
いつまでも



後世へ子孫を残すため、最後の1週間を懸命に飛び続けるホタル。はかなくも美しい光を放つ

＝ 身近に存在する国の重要文化財 ＝

天恩寺の 仏殿と山門

天恩寺は、室町幕府三代將軍である足利義満が永源寺の弥天永釈に命じて建立した寺院です。現在は、臨済宗妙心寺派となっています。

仏殿は、地藏堂ともいいます。単層で屋根は檜皮葺、室町時代の唐様式の建築で、国の重要文化財に指定されています。

山門は薬医門形式で、主柱2本に控えの柱2本の四本柱で、屋根は柿葺です。室町末期の建築物で、現存する薬医門としては最古のものと言われています。仏殿とともに国の重要文化財に指定されています。

鹿勝川庚申堂の 毘沙門天立像

鹿勝川庚申堂の毘沙門天立像は、庚申堂の本尊青面金剛像の脇侍二天王として祀られているので2軀あります。平安時代に造られた像で、国の重要文化財に指定されています。

昔、中国西域の兜跋国が、敵の攻撃を受けた時に地中から湧き出て敵をやっつけたと伝えられる強い仏さまです。その姿は地天女の手のひらに乗り、鎧を着て、眼を見開き、威嚇している様子を表しています。

江戸時代に庚申講の人々が、紀州日置川よりお迎えしたと伝えられています。

足元のちっちゃな人は誰？



毘沙門天が踏みつけているのは、地天女と呼ばれる大地の化身です。地中から毘沙門天が湧き出て敵を敗走させたという故事から、地天女すなわち大地の上に立つ姿を表しています。毘沙門天像は邪鬼の上に立つ姿を表すことが多いため、この兜跋毘沙門天立像は特異な姿をしていると言えます。

人々の夢をのせて舞う 鳥川のホタル

昭和30年代後半から40年代にかけて壊滅状態となっていた鳥川のホタル。そこで昔のホタルを取り戻そうと、平成6年に旧鳥川小学校と地区が一緒になって鳥川ホタル保存会を立ち上げて保護活動が続けています。現在、1200匹余のホタルが乱舞する懐かしい自然が戻ってきました。

*ホタルまつり

毎年5月下旬から6月下旬にかけて開催。おすめの観賞スポットは、地区内の河川周辺に点在しており、臨時開設されるホタル案内所やホタル学校でホタル観賞情報入手できます。また、期間中の1日、「ホタルまつりイベント」も開催されます。



鳥川ホタル保存会から

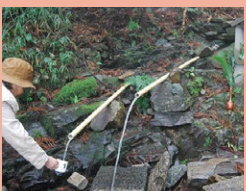
ホタル減少の一番の原因は、水環境の悪化でした。ホタル君は、身を賭して私たちに水の大切さを教えてくれました。私たちも、ホタル君と共生できる水環境保全を目指して、地元ホタル学校やみなさま方のご支援をいただき、微力ながら頑張っています。よろしく願いいたします。



COLUMN ホタルの命は水

鳥川ホタルの里湧水群

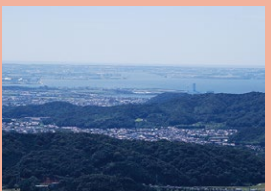
もともと至る所から水が湧き出ている鳥川地区。ホタルも住民もこの水の恵みにより育まれてきました。「延命水」・「産湯の滝」・「庚申の水」などからなる湧水群は、平成20年に環境省の「平成の名水百選」に認定されました。永い永い年月を経て、地上に生まれ、地中に生まれ、そして再び湧き出てくる湧水もあるといわれています。コップ1杯の中に詰まった水の歴史に思いを馳せてみませんか。



▷延命水

水源をめぐる山歩き

水の故郷である山にも親しんでいたこうと、鳥川ホタル保存会では、「山歩きコース」の整備も進めています。現在、その延長は17kmほどになり、山歩きイベントも開催しています。コースのルートがわかる「ホタルの里の山歩きマップ」は、ホタル学校などで配布されています。みなさんも山歩きを楽しんでみませんか。



▷山歩きコースから三河湾を望む